



# 廃棄物の削減



- リサイクル率の推移
- 水質源の有効利用

ムラタでは、2003年度にゼロエミッション(埋め立て廃棄物をゼロにし、リサイクル率を100%にする)を国内グループで達成しました。現在は、海外でのゼロエミッションと、廃棄物発生量そのものの削減に取り組んでいます。

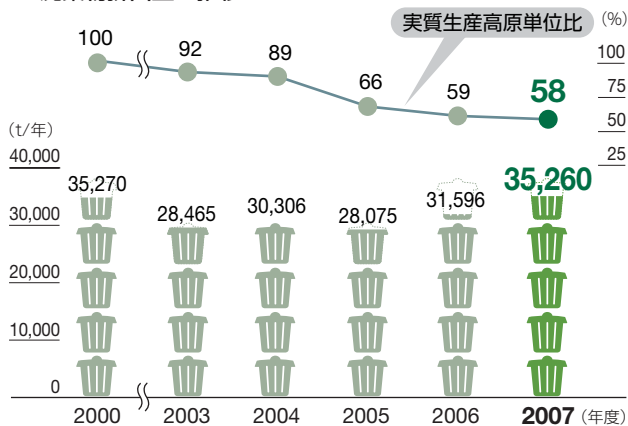
## リデュース・リユース・リサイクル推進

### 廃棄物排出量を2000年度原単位比42%削減

ムラタでは、廃棄物の約70%を占める廃プラ・廃液の削減を重点的に取り組んでいます。廃プラについては、セラミックスが付着した廃棄プラスチックから、セラミックスを剥離することによって、プラスチック、セラミックスの再資源化を進めています。また、廃液については濃縮装置の導入によって約20分の1に減溶化しています。

その結果、2007年度は、2000年度実質生産高原単位比42%削減を達成することができました。

#### ▼ 廃棄物排出量の推移



廃棄物の担当者会議



### 国内グループ内の情報共有を活性化

ムラタでは、各拠点で実施された廃棄物削減事例や法改正などの情報を国内グループ内で共有化しています。また定期的に廃棄物管理担当者が集まり、専門家を招いての講演会や担当者同士で意見交換するなど、管理レベルの向上を図っています。

2007年度は福井村田製作所に35名の担当者が集まり、廃棄物管理の事例研究、現場視察を実施しました。

### 電子マニフェストの導入

電子マニフェストは、廃棄物処理を委託する際に、処理業者に発行する廃棄物管理票(紙マニフェスト)を電子情報化して確実に処理されていることを確認する政府主導のシステムです。

ムラタでも、2007年度に電子マニフェストへの置き換えが76%に達しました。

なお、2009年3月末までに、国内グループで電子マニフェストの導入を完了する予定です。

### 北京村田でゼロエミッション達成

ムラタでは、2003年度に国内で廃棄物ゼロエミッションを達成し、現在も維持しています。ゼロエミッションとは、直接および中間処理も含めた埋立廃棄物をゼロにし、リサイクル率100%にすることと、ムラタでは定義しています\*。海外でも、2006年度に「2010年度にゼロエミッション達成」の目標を掲げ、取り組みを進めています。

国や地域によって事情が異なり、ゼロエミッション達成が困難な面もありますが、2007年度は北京村田電子有限公司でゼロエミッションを達成しました。

\* 浄化槽余剰汚泥など自らの取り組みだけでは対応できない廃棄物は、除外しています。

#### 従業員から

#### 廃棄物の処分委託先を定期的に視察しています



環境管理部  
環境管理課  
國塩 綾子

委託業者が当社の廃棄物に対して不法投棄など違法行為を行った場合、法的にも道義的にもムラタの社会的責任は免れられません。このため、業者と委託契約を締結する前に、経営状態の評価と現地視察を実施し、法の遵守、設備の稼働状況・処分方法等を必ず確認しています。また、契約締結後も定期的に現場を視察しています。

なお、拠点廃棄物管理担当者の関係法令に関する法知識の向上と、情報の共有化を図るため廃棄物担当者会議を継続的に実施しています。